

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24520055

研究課題名(和文) 南アジアにおける密教の展開 『ヴァジュラダーカ・タントラ』原典研究

研究課題名(英文) Development of Esoteric Buddhism in South Asia: Philological Study of Sanskrit Manuscripts of the Vajradakatantra

研究代表者

杉木 恒彦 (Sugiki, Tsunehiko)

広島大学・総合科学研究科・准教授

研究者番号：40422349

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：インド密教経典『ヴァジュラダーカ・タントラ』(10世紀頃編纂)の主要な計33の章(第1、7、8、10～22、24、29、30、32～38、41～45、48、50章)の世界初の梵語校訂テキストと英語訳注ならびにその内容全体の英文概説を作成した。合わせて、関連するカンバラ作『サーダナニディ』のいくつかの章(第4～7章)の世界初の梵語校訂テキストおよび内容の英文概説を作成した。これらの一部を公開性ある学術誌に刊行した。今後も成果を継続的に刊行していく予定である。

研究成果の概要(英文)：I have made the first critical Sanskrit editions and English translations of the major 33 chapters (viz., 1st, 7th, 8th, 10th-22nd, 24th, 29th, 30th, 32-38th, 41st-45th, 48th, and 50th chapters) of the Vajradakatantra, a Buddhist Tantric scripture composed sometime between the 9th and the 11th centuries), with preliminary philological analyses of their contents. Furthermore, I have completed Sanskrit critical editions of some chapters (viz., 4th-7th chapters) of Kambala's Sadhananidhi, which I consider to have close relation to the Vajradakatantra. I have published some of these in the internationally open journals. I plan to publish all the rest in the near future.

研究分野：インド哲学・仏教学

キーワード：インド密教 ヴァジュラダーカ タントラ サーダナニディ

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の主題材である『ヴァジュラダーカ・タントラ』を含むサンヴァラ系密教の本格的な研究は、1974年に津田真一氏(国際仏教学大学院大学名誉教授)が『サンヴァローダヤ・タントラ』の梵語校訂テキストと英語訳注を刊行したことに始まる。それ以降、Alexis Sanderson氏(オックスフォード大学名誉教授)によりシヴァ教とサンヴァラ系密教の間の影響関係に関する考察が行われ(1995年)、サンヴァラ系密教の体系の基礎部分が徐々に明らかにされていった。だが『ヴァジュラダーカ・タントラ』については、上述の津田氏による第14章の一部のテキスト(東京大学図書館所蔵の梵語写本マイクロフィルム1本のみを使用)が1973年に刊行されたのみで、全体の校訂テキスト編纂は行われなかった。このこともあって、『ヴァジュラダーカ・タントラ』の資料上の意義と密教史上の意義も、研究者の間で論じられることはほとんどなかった。

研究代表者は1997年以降、サンヴァラ系密教とその周辺密教伝統の梵語写本の収集と解説に従事してきた。『ヴァジュラダーカ・タントラ』の現存する2本の貝葉写本(東京大学図書館所蔵のもの、コルカタのAsiatic Society所蔵のもの)も入手し、解説作業に着手した。この研究過程において、研究代表者は『ヴァジュラダーカ・タントラ』がもつ資料上の意義と密教史上の意義に気付き、同経典の校訂作業をすべきとの考えを強めた。

2. 研究の目的

初期中世期(6世紀半ば以降)、インドではタントラと呼ばれる一連の聖典の編纂とそれにまつわる様々な宗教運動(タントリズム)が活発化した。大乘仏教の一部もこのタントリズムの潮流に身を投じ、8世紀以降、後期密教(仏教タントリズム)の伝統を開花させた。後期密教の大きな潮流の1つとして、サンヴァラと総称される伝統群がある。この潮流は9世紀頃に誕生し、(現存する梵語写本や西蔵語訳文献から確認できる限りでは)インド後期密教において最も多数の聖典・儀軌文献を産出した。10世紀以降のネパールのネワール金剛乗仏教の興隆と展開の際にも多くの受容の跡を辿ることができる。インド・ネパール仏教史の再構築の上で、サンヴァラという潮流の研究を欠かすことはできない。インド・ネパール地域におけるサンヴァラの展開と伝播の全体像を、仏教内外の周辺伝統との関連を踏まえながら文献学的・宗教史的に明らかにしていくことが、研究代表者の研究の全体構想である。

その一過程として、10世紀頃編纂のサンヴァラ系密教経典『ヴァジュラダーカ・タントラ』の主要な章(第1、7、8、10~22、24、

29、30、32~38、41~45、48、50章:計33章)の世界初の梵語校訂テキストと英語訳注ならびにその内容全体の英文概説を完成することが、本研究の具体的な目的である。

加えて、『ヴァジュラダーカ・タントラ』と関連の深いカンバラ作『サーダナニディ』のいくつかの章(第4~7章)の世界初の梵語校訂テキストと英文概要も作成する。

3. 研究の方法

本研究は梵語写本を扱う基礎研究である。そのため、まず、関連写本を所蔵するネパール(National Archives)とインド(Asiatic Society)に赴き、必要な資料を収集することにより研究環境を整える。とりわけAsiatic Society所蔵の『ヴァジュラダーカ・タントラ』の写本複写については、研究代表者はマイクロフィルムを紙印刷したもの(判読困難な箇所が少なくない)をコピーしたものしか持っていなかったため、写本を直接撮影した電子ファイル(JPG)を入手する。

続いて、入手した資料群を用いて研究を進めていく。具体的には、『チャクラサンヴァラ・タントラ』、カンバラ作『サーダナニディ』、『アビダーノッタラ・タントラ』、『サンブタ・タントラ』、『グヒヤサマージャ・タントラ』、『チャトウシュピータ・タントラ』といった関連文献に登場する共通・類似の偈頌を逐一確認しながら、文脈の相違も考慮しつつ、『ヴァジュラダーカ・タントラ』の文章1つ1つを丁寧に校訂・訳注していく。その過程で新たに必要であると判明した資料があれば、適宜国内外から補充する。

以上のように、資料の補充と解説を往還しながら、校訂テキスト・訳注・内容分析を精緻化させていくことが、本研究の基本的な研究方法である。

4. 研究成果

本研究が対象とする『ヴァジュラダーカ・タントラ』の計33章のうち、第1、7、8、14、18、22、36、38、42、44、48章については、研究代表者は、本研究開始時に既に梵語校訂テキストと内容の英文概要を刊行していた。5年間にわたる本研究期間において、新たに得た資料を用いながら、それらの校訂テキストと概要の精度を高め、英訳の作成を作成した。これらの成果は、後述する将来的に刊行予定の書籍の一部を構成する。

『ヴァジュラダーカ・タントラ』のその他の章については、本研究期間において、梵語校訂テキスト・英文訳注と概要を作成することができた。関連資料である『サーダナニディ』の対象章についても、梵語校訂テキストと英文概要を作成することができた。最終年度である2016年度が終わるまでに、それらの一部(『ヴァジュラダーカ・タントラ』第11~13、15、19章と、『サーダナニディ』第

4～7章)を、後述(5. 主な発表論文等)の
に記した公開性ある学術誌に刊行するこ
うができた。その他の章については、引き続き
適切な学術誌に刊行していく。

最終的には、それら全体を一冊の書籍とし
て刊行することを(出版助成の獲得に努めつ
つ)計画している。

梵語校訂テキストや訳注を本報告書に再
掲することは現実的ではない。それゆえ、以
下、本研究期間において刊行にいたった成果
のうち、内容分析に関するものについて、こ
こに記す。

『ヴァジュラダーカ・タントラ』第11章
のタイトルは「全ての幻の種々変化」である。
その内容は、インドのヨーガの一つの形であ
る、チャクラと脈管に基づく、心身相関的な
ヨーガ——注釈者バヴァバドラによれば「微
細なヨーガ」、シヴァ教文献ではしばしば「ハ
タ・ヨーガ」と呼ばれる——と、そのヨーガ
に基づく敬愛のヨーガ(欲しい人や物を自分
に引き寄せる効果のあるヨーガ)である。少
しであるが、『サンブタ・タントラ』との共
通偈頌を見出せる。

第12章のタイトルは、「ヴァジュラダーカ
の出現」である。その内容は、『ヴァジュラ
ダーカ・タントラ』の主尊であるヴァジュラ
ダーカと彼を囲む4人の主要な瑜伽女たち
(パータニー、マーラニー、アーカルシャニ
ー、ナルテーシュヴァリー)により構成され
る曼荼羅の成就法である。この実践の過程で
念じられる誓いの偈頌(菩提心を発する宣言、
五部族の誓約、有情利益の誓いから構成され
る)をはじめ、『金剛頂タントラ』と『一切
悪趣清浄タントラ』と『サンブタ・タントラ』
と『チャクラサンヴァラ・サーダナ』と『ヴァ
ジュラーヴァリー』に共通あるいは類似の
偈頌を見出せる。

第13章のタイトルは、「勇者の不二の供養
と全ての儀礼の出現」である。この章は、様々
な小部の教説の雑多な集成であるが、それら
の中に、第12章に説かれる4人の主要な瑜
伽女たちの機能(落とすこと、殺すこと、引
き寄せること、踊り)と、彼女たちにその機
能を発揮させるためのヨーガの教説が含ま
れている。一部だが、『チャクラサンヴァラ・
タントラ』と『チャクラサンヴァラ・サーダ
ナ』に共通・類似偈頌を見出せる。

第15章のタイトルは、「(仏の)三身の出
現と、マントラの相続の出現と、時外れの死
を欺くこと」である。その内容を大きく2つ
に分けることができる。1つは、仏の三身の
観念とマントラを、チャクラと脈管を用いる
心身相関的ヨーガ(バヴァバドラによれば
「微細なヨーガ」と関連付けたヨーガの実
践である。このヨーガは、サンヴァラ系クリ
シュナ流において究竟次第として体系化さ
れていく。もう1つは、時外れの死(不慮の
死)を避けるための観想である。本章を構成
する偈頌のほぼ全てと共通あるいは類似の
偈頌を、『チャクラサンヴァラ・タントラ』

と『サンブタ・タントラ』と『サーダナニデ
ィ』と『ヘーヴァジュラ・タントラ』と『チ
ャクラサンヴァラ・サーダナ』と『ヴァサン
タティラカー』に見出すことができる。

第19章のタイトルは「全てのブータとグ
ラハを生じる成就法」(「ブータ」と「グラハ」
は多義的)である。その内容は、世間的な神々
の曼荼羅の成就法と、それら神々の個別の成
就法である。それら神々やその曼荼羅は、現
世的な願望を成就してくれる。密教の修行の
目的はしばしば出世間的な成就(つまり解脱)
と世間的な成就(つまり超能力の獲得を
含む現世利益一般)に分類されるが、ここで
説かれる成就法は後者の成就をもたらす。こ
こに説かれる世間的な神々とは、主尊(注釈
者バヴァバドラによればブータダーマラ)、
ダーキニーとディーピニーとチューシニー
とカンボージーという4人瑜伽女たち、七母
神あるいは八母神、護世八天、8人の惑星神、
ブラフマンとヴィシュヌとルドラとスカン
ダというヒンドゥー教の主要な三神とルド
ラ(シヴァ)の息子1人である。『チャトゥ
シュピータ・タントラ』と『ダーカールナ
ヴァ・タントラ』に関連偈頌が見られる。

『サーダナニディ』第4章、5章、6章、7
章は、それぞれ、『チャクラサンヴァラ・タ
ントラ』第4～7章の注釈書である。それら
の章の主題は、24組の勇者(男神)と瑜伽女
(女神)のペアを身体内に観想する実践と、
サンヴァラ系密教の根本マントラの説明と、
修行者が自分自身を守護するための6人の甲
冑の男性尊格(ヴァジュラサットヴァ、ヴァ
イローチャナ、パドマナルテーシュヴァラ、
ヘールカ、ヴァジュラスーリヤ、パラマーシ
ュヴァ)の観想である。これらいずれの要素
も、サンヴァラ系密教の多くの文献に説かれ
る、サンヴァラ系密教に代表的な教説・実践
である。だが、24組の勇者と瑜伽女のペアの
観想については、とりわけ『ヴァジュラダー
カ・タントラ』と『チャクラサンヴァラ・サ
ーダナ』に最も近似する文言を見出せる。こ
れらの間の緊密な文献成立上の関係を示唆
する。

最後に、まだ刊行されていない『ヴァジュ
ラダーカ・タントラ』の数章の内容を簡潔に
報告しておく。第16章は、根本マントラと
ヘールカの心髄マントラによる世間の実践
などを説く。第17章は、様々な効果をもた
らす物質の種類について説く。第20章は、
異常が現れた人の寿命の長さを、異常の内容
毎に説明する。第21章は、ウトクラーンテ
ィ・ヨーガ(よい死後の運命を得るために死
時に行う「死のヨーガ」)などを説く。第24
章は、24のホーラー(時間)の様々な特徴を
説明する。第29章は、空の観想などを説く。
第30章は、とりわけ転生時における心の作
用を説明する。第32章は、師と弟子の特徴
を説明する。第33章は、各種のマントラを
記述する。第34章は後期密教的な灌頂の簡
潔な説明である。第35章は、驢馬の姿のヨ

一ガ（尊格を驢馬の顔で観想することにより、様々な効果を得る）である。第 37 章は、武器の観想（注釈によれば、これにより病気を治したり戦争を鎮めたりすることができる）を説く。第 41 章は、梵語の文字 1 つ 1 つの呪的機能とその実践を説明する。第 43 章は、護摩の断片的教説の集成である。第 45 章は、数珠の特徴を説明する。第 50 章は総括的な章である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

① Tsunehiko Sugiki (杉木恒彦), Perfect Realization (Sadhana) of Vajradaka and His Four Magical Females - Critical Editions of the Sanskrit Vajradakamahatantra Chapters 12 and 13, 早稲田大学高等研究所紀要, 9, 査読有, 2017 年, pp. 5-31

<https://www.waseda.jp/inst/wias/assets/uploads/2017/03/RB009-005-031.pdf>

② Tsunehiko Sugiki (杉木恒彦), Kambala's Sadhananidhi - Critical Editions of the Sanskrit and Tibetan Texts of Chapters from 4 to 7., 開智国際大学紀要, 15, 査読有, 2016 年, pp. 19-44,

http://www.kaichi.ac.jp/wp-content/themes/kaichi2/images/library/kiyo15/kiyo15_02.pdf

③ Tsunehiko Sugiki (杉木恒彦), Examples of the Subtle Yoga in the Vajradakatantra - Critical Editions of the Vajradakatantra Chapters 11 and 15, 早稲田大学高等研究所紀要, 8, 査読有, 2016 年, pp. 39-64,

https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=27314&item_no=1&page_id=13&block_id=21

④ Tsunehiko Sugiki (杉木恒彦), A Mandala and Sadhana Practices of Mundane Deities in the Vajradakatantra - A Critical Edition of the Vajradakatantra Chapter 19, (智山勸学会編)『小峰彌彦先生・小山典勇先生古希記念 転法輪の歩み』(『智山学報』65), 青史出版, 査読有, 2016 年, pp. 283-342.

(近いうちに Web 上で公開される予定)

〔学会発表〕（計 1 件）

① Tsunehiko Sugiki (杉木恒彦), Mandalas of Mantras in the Cakrasamvara Buddhist Literature: Kambala's Sadhananidhi

Chapter 8, the Abhidhanottara Chapters 37, 51, 52, and 59, and the Two Sadhanas from the Sadhanamala. 1st Zurich International Conference on Indian Literature and Philosophy, "Transgression and Encounters with the Terrible in Buddhist and Saiva Tantras", University of Zurich (チューリッヒ大学), チューリッヒ(スイス), 2月19-20日, 2016年

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<https://hiroshima-u.academia.edu/TsunehikoSugiki>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉木 恒彦 (SUGIKI, Tsunehiko)

広島大学・大学院総合科学研究科・准教授

研究者番号：40422349

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()